

授業科目名・形態	社会保障論Ⅱ	講義	必修・選択の別	選択	単位数	2
科目担当者氏名	林 宏二・小野 聰子		実務経験の有無	有	開講期	2年後期

【授業の主題】

本講義では、社会保障論Ⅰで学んだ社会保障制度の知識をベースに、年金、医療、介護労働・福祉サービス、公的扶助に対する制度的仕組みと内容、公的保険制度と民間保険制度の関係などを総合的に理解し、認識を深める。

【到達目標】

1. 公的年金制度の仕組みを理解し、併せて近年の課題と展望について理解する。
2. 社会保障制度としての医療保険、医療保障システムを理解する。
3. 介護保険制度を理解し、介護支援計画作成の基礎能力をつける。
4. 公的扶助、社会手当制度を理解するとともに、社会保障制度の課題を認識する。

【授業計画・内容】

- 第1回 公的年金保険制度の沿革と厚生年金
- 第2回 厚生年金の概要と課題
- 第3回 国民皆年金制度と国民年金
- 第4回 医療保険制度の沿革と健康保険
- 第5回 国民皆保険制度と国民健康保険
- 第6回 医療保険制度の課題と問題点
- 第7回 高齢者の介護問題と社会的介護保障システム
- 第8回 介護保険制度の概要と課題
- 第9回 介護保険制度の動向、新しい福祉システムと介護保険
- 第10回 労働者保護施策と労災保険制度
- 第11回 労働者保護施策と雇用保険制度
- 第12回 社会保障と社会福祉、理念・目的・制度の相異
- 第13回 社会保障制度と社会手当制度
- 第14回 社会保障の当面の課題と制度改革（公的保険制度と民間保険制度の関係を含む）
- 第15回 諸外国の社会保障制度

【授業実施方法】

基本的には講義形式で行う。

【授業準備】

前回の講義の内容を復習し、講義予定の該当箇所、関連部分に目を通すこと。専門用語・概念などについて調べ、疑問点を整理しておく。講義中に取り上げたメディアの情報や資料について、自らソースや文献に当たり確認する。社会福祉関連のニュースに关心を寄せ、主体的に講義を受ける準備をする。

【主な関連する科目】

社会福祉概論、公的扶助論、 福祉行政財政と福祉計画

【教科書等】

社会福祉士養成講座編集委員会編『社会保障』（第6版） 中央法規

【参考文献】

適宜紹介する。

【成績評価方法】

授業への取り組み姿勢 10%、提出レポート 30%、期末試験成績 60%の総合評価とする。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

私は、5年間矯正施設で社会福祉士として勤務していた。矯正施設勤務で培われた社会保障・社会福祉制度の活用の仕方、社会ニーズの把握の方法、相談援助の方法を伝えたいと思う。

【学生へのメッセージ】

年々増加・膨張する社会保障費用は、社会福祉・年金制度・医療制度の現状維持を難しくしている。社会福祉については福祉改革による新しい福祉システムが造られてきた。次のステージとして、社会保障改革が進められている。こうした社会的背景の中で、社会保障制度のあり方について正しく認識し、判断していくためには、日常的に社会福祉・社会保障の関連領域まで含めて情報の収集と判断が求められる。社会福祉・社会保障を学び、習得した基礎的知識・技術を更に深めて、専門職として社会に還元するための実践学として積極的に学んでもらいたい。